

12/19 千歳高等支援学校 生産技術科の生徒  
革製ネームホルダーを市に納品



千歳高等支援学校が、生徒が製作した革製ネームホルダー90個を市に納品しました。同校はカリキュラムに「作業学習」を取り入れており、その一環として平成28年度以降、市からの注文を受け、市職員が使うネームホルダーを製作、納品しています。今回納品したネームホルダーは、生徒7人が工程を分担し約4か月かけて製作したもので、使う人の首が痛くならないよう、ストラップを研磨して薬剤を塗布するなどの工夫が凝らされています。納品のため市役所を訪れた同校生産技術科3年の木村 隼人と渡部 颯人は、「革の色と縫い合わせる糸の色の組み合わせを一生懸命考えたので、ぜひ見てほしい」と話しました。

**人々のうごき**

《総人口》  
97,007人 (-27)  
男性 49,386人 (+21)  
女性 47,621人 (-48)  
《世帯》52,786世帯 (-14)

( )内は、前月との比較です。

1-1 現在

**広報ちとせからのお知らせ**

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入していないを問いません。

広報広聴課 広報係  
☎(24)0104 FAX(22)8851

12/15 日本航空大学校と企業・農協がコラボ  
新商品「すかいも」登場



日本航空大学校・北海道校の学生が、地元食材を使った北海道さつまいもプリン「すかいも」を立案。企業などとともに商品を開発し、販売を開始しました。「すかいも」は、田中製菓が製造し、大納言小豆(JA道央)を丸大豆しょうゆ(北海道キッコーマン)で味付けした煮豆入り。さつまいも「シルクスweet」(ホクレン)に生クリーム(フジッコ)を加えて作ったプリンは、なめらかな口当たりと濃厚な味わいが特徴です。商品のパッケージは千歳市空港開港100年をモチーフに学生がデザインし、12月から同校キャンパス内など市内で販売しています。12月15日には平松 優和さん、福嶋 花凛さん、久保 百々葉さんが市役所を訪れ、「すかいも」をPR。「スイーツポテトのようにさつまいも本来の食感を堪能でき、お茶にもコーヒーにも合います」と紹介しました。

ちとせ空港  
Vol.33 軍民分離

手づくりの着陸場から新千歳空港へ開港100年の歴史を振り返る

**新空港**  
昭和45年6月、運輸大臣、北海道開発庁長官、防衛庁長官の3者会談による「千歳飛行場の分離等に関する申合せ事項」として、次のように示されました。

1. 現千歳飛行場の東側または西側に、新たに民間空港を建設することとする。

そして10月には3省庁の合意により、新滑走路の位置は「千歳飛行場東側滑走路と平行に東側へ1500m程度離し、設置する」とされ、翌46年6月には、滑走路長が3000m、幅が60mと決定しました。

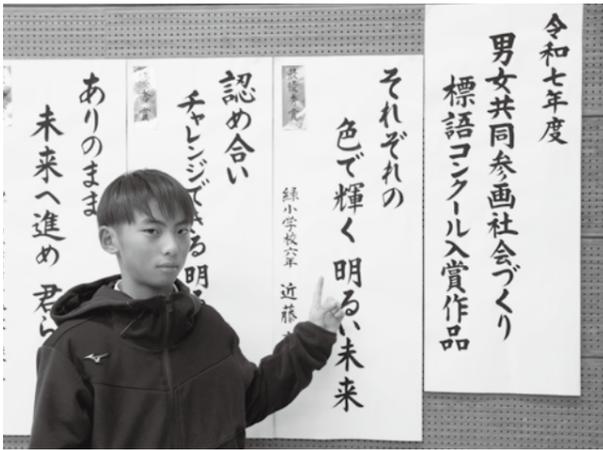
**軍民分離**  
そもそも昭和41年7月の「千歳空港を自衛隊専用空港に」との政府発言は、「滑走路を自衛隊と共用しては、増え続ける航空需要に対応できない。民間専用空港を別に設置し、(軍)民分離を図る」との考えに基づくものでした。

昭和46年7月には、岩手県石町上空で旅客機と自衛隊機が衝突し、乗員乗客16人が死亡する痛ましい航空機事故が発生。航空安全の観点から、軍民分離の意識は着実に高まっていました。

昭和48年、新千歳空港整備基本計画が示されました。年間360万人の旅客に対応できる台形型のターミナルビルと、3000mの滑走路2本を備えた巨大空港です。翌49年11月にはその第一期工事が着工し、開港は昭和53年12月1日を予定していました。

千歳空港ターミナルビル内 昭和46年12月

12/1 男女共同参画社会づくり標語コンクール  
「明るい未来」願い込め



児童期から男女共同参画についての理解と関心を深めるための取り組みとして、市は毎年、標語コンクールを開催しています。今年度は、応募作品470点の中から18作品を入賞作品に選び、総合福祉センターで表彰式を行いました。最優秀賞に輝いたのは、近藤 亮汰さん(緑小6年)の作品「それぞれの色で輝く 明るい未来」。近藤さんは、この標語を「いつかこんな未来が訪れたら」と願って書き上げたといい、「誰もが差別することなく、お互いに認め合えるような社会になってほしい」と、作品に込めた思いを話しました。

12/7 地域の子どものための安心の場  
こども食堂ふくろう 開所式



発達障がいやひきこもりの子どもたちの未来を支援する会FUKUROが、市内8か所目となるこども食堂「ふくろう」を開設しました。スタッフの勉強会などを経て、1月中のオープンが予定されています。ボランティアの5人がオープニングスタッフとなり、開所は第2、第3火曜日の16時30分から18時30分までを予定。約1,600もの企業との提携により、食べ物はもちろん、子どもの服やおもちゃ、勉強するための参考書なども豊富に揃えています。この日は開所式が行われ、FUKUROの木村 榮治 代表は、「地域の子どもたちにとっての安心の場、一緒に宿題をやったり笑いあったりできるコミュニケーションの場にしたい」と話しました。

12/3 夢につながるハイタッチ  
コンサドレーの選手が訪問



北海道コンサドレー札幌の近藤 とも喜選手、木戸 柊摩選手、家泉 怜依選手が「CONSADOLE HOKKAIDO TOURS」の一環で向陽台小学校を訪れました。道内各地を巡る本イベントでは、3選手による迫力満点のキックや児童とのパス交換などが行われ、プロの技を間近でみた児童たちは大興奮。サイン色紙やサッカーボールなどが同校に贈呈され、最後には児童がつくった花道で選手が見送られました。実際にプロ選手からパスを受けシュートを披露した5年生の半澤 楓大くんは「ボールを蹴るときの姿勢がカッコよかった。試合でも頑張りたい」とエールを送りました。



お問い合わせは  
遺品整理士認定協会  
☎42-0528